

## 文化財・社寺観光に関する適切な英語表記の考え方 英語圏からの外国人観光客を対象として

### 1. 独りよがりでない、観光客の知識水準・関心の方向に沿った説明が必要

- 社寺観光に何を求めているか、関心はどこにあるかによって説明・解説すべきポイントは異なる
- 年齢、知識水準、日本文化への親和度、訪問回数など多種多様な観光客ニーズに応える英語表記はひとつではなく、その要求は区々
- ひとつの文化財に対する説明・解説が数種に及ぶことに。
  - 例えば、初心者用・中級者用・上級者用

### 2. 異文化圏の人々に対する英語説明・解説の留意点とポイント

- 社寺観光では、入口として、一神教と多神教文化の比較相違を説明する必要
- “神さま仏さま”に代表される神道・仏教が並び立つ文化への理解が必要
  - “八百万の神さま”・“神さま”と“GOD”の違い
  - ケルト神話やギリシャ・ローマ神話など多神教文化を例にとった説明も有効  
    竈の神さまとローマ神話のウェスタ(Vesta)
  - アニミズム・輪廻転生・霊魂不滅といった宗教観、それが日常に融け込んだ具体例の列挙(仏壇と神棚・大晦日とお盆)
  - “異国の蕃神”、しかし、神さまのひとつであるとして入ってきた仏教
  - 神仏習合という歴史そのものが日本人の宗教観、どううまく説明するか
- 個別文化財の説明には、その背景にある物語、伝説を付言することで、より深い文化財の理解、日本文化への関心惹起につながる
- 現世ご利益(商売繁盛・縁結び等の神さま)は普遍性のある民間信仰として日本人の宗教観をシンプルに理解してもらう適当な一例か。
- 一方で、現代日本人の変貌する宗教観にも言及すべき

### 3. 説明・解説の媒体と備え付けをどうするか

- 紙媒体
  - 総論的日本文化の説明(日本文化を楽しむ基礎知識)  
    空港・JRターミナル・観光案内所、東大寺など代表的観光社寺等玄関機能を果たす場所に置くことが肝要

- 個別文化財に関する説明書  
観光案内所・個別文化財・社寺の拝観受付  
一寺院・神社内では拝観順路に沿い、オーディオガイドがあると良い。
- 個別文化財で人の配置のないところ  
説明書を目につく箇所に置いておく必要。古めかしい説明板はNO

➤ 説明板(駒札)

- 現状、日本語説明と英語表記が異なるケースが多く見られる
- 古い石碑の説明書きの復刻ないし読み解きによる解説は有効

➤ スマートフォン等IT媒体

- 当媒体による説明機能を早急に充実する必要、特に個人観光客にはアクセス情報とともに必須。
- 当媒体は総論から個別情報まで情報すべてを伝達することが可能で、JNTO、大手旅行代理店などのHPから入ることも検討
- 観光協会・社寺サイドのIT情報化の充実・促進も。現状、精粗区々。(IT促進化支援策も必要)
- QRコードによる説明は現状、十分な活用がなされていない。場合によっては動画サイトへの誘導も効果的

➤ オーディオ媒体

- 社寺の境内、館内拝観の際のよりきめ細かい説明に適切
- GPS機能をつけたものだと便利。その場所に来たら説明が始まる。

#### 4. 社寺観光を通じ日本文化への理解を深める観光のあり方の一例

- 能と社寺観光(能の「融」・「卒塔婆小町」などをめぐる)  
京都 上徳寺・本覚寺・枳殻邸・随心院・新熊野神社・西本願寺北能舞台  
奈良 興福寺・春日大社・氷室神社など

#### 5. 必要な体制と人材の確保

- 他言語による日本文化検定制度の創設 京都検定のような資格制度
  - 通訳ガイドに採用するひとつの尺度にするのも一考の余地

以上